

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報			
製 品 名	ミナダン		
会 社 名	酒井化学工業株式会社		
住 所	福井県鯖江市川去町32字2-1		
担 当 者 名	商品開発部 山崎智一		
電 話 番 号	0778-62-3295	F A X 番 号	0778-62-3296
2. 組成、成分情報			
単一製品・混合品の区別 化 学 名	単一製品 ポリプロピレン(EPブロックコポリマー) ※Eはエチレン、Pはプロピレンを表す		
危険有害成分 化 学 式	情報なし [CH ₂ -CH(CH ₃)] _n		
C A S 番 号	9010-79-1		
官報公示整理番号 (安衛法・化審法)	(6)-10		
3. 危険有害性の要約			
最重要危険有害性 特定の危険有害性 分類の名称	可燃性である。消防法指定可燃性にあたる。 切断面での切傷および加熱されたシートによる火傷に注意。 粉塵は眼や皮膚を物理的に刺激することがある。 分類基準に該当せず		
4. 応急措置			
吸入した場合	高温の溶融樹脂から発生するガスを吸入した場合は、被曝者を直ちに新鮮な空気のある場所に移動させ、毛布等で包んで安静にさせる。 粉塵を吸入した場合は、被曝者を直ちに新鮮な空気のある場所に移動させ、鼻をかみ、うがいをさせる。 異常があれば、直ちに医師の診断を受ける。		
皮膚に付着した場合	粉末の場合は水で十分に洗い流す。 溶融物が付着した場合は、衣服の上から大量の水をかけ十分に冷却した後、衣服を脱がせ、清潔なガーゼ等で覆って、速やかに医師の診断を受ける。		
目に入った場合	清浄な水で最低15分間目を洗浄した後、直ちに眼科医の診察を受ける。 コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗浄する。洗眼の際、瞼をよく指で開いて、眼球・瞼のすみずみまで水が行き渡るように洗浄する。 決して目をこすってはならない。		
飲込んだ場合	水で口の中をよく洗浄する。 コップ1～2杯の水又は牛乳を与えて胃内で薄めてもよい。 意識があり、可能であれば、喉に指を差し込んで吐き出させ、直ちに医療措置を受けさせる。		

5. 火災時の措置	
特定の消火方法	初期火災には、粉末・泡・二酸化炭素などを使用する。大規模火災の場合、水・泡で一挙に消化する。周辺火災のときは、製品を安全な場所に移動させる。
消火を行う者の保護	燃焼又は高温により有毒ガスが発生することがあるので、呼吸用保護具を着用する。
消火剤	水・泡・二酸化炭素・乾燥砂
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項	情報なし
環境に対する注意事項	水面へ漏出した場合は、鳥類・魚類等への悪影響もあるので全て回収すること。
除去方法	回収、廃棄する。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	<p>技術的対策</p> <p>取扱者の曝露防止：通常の取り扱いでよいが、粉塵を吸い込んだり、眼・皮膚及び衣服に触れないように適切な保護具を着用する。切断面での切傷には特に注意を要する。</p> <p>火災・爆発の防止：周辺での裸火の使用を禁止する。</p> <p>注意事項：情報なし</p> <p>安全取扱い注意事項：情報なし</p>
保管	<p>技術的対策：貯蔵場所ではみだりに火気を使用しない。強酸化剤から離しておく。</p> <p>混触禁止物質：情報なし</p> <p>容器包装材料：ポリエチレン袋等</p> <p>適切な保管条件：雨・風・日光にさらされない場所で、常温で保管する。</p>
8. 曝露防止及び保護措置	
設備対策	粉塵が発生する場合は、局所排気装置を設置することが望ましい。
保護具	粉塵が多い場合は防塵マスク・保護マスクを着用することが望ましい。
管理濃度	設定されていない(5)
9. 物理的及び化学的性質	
物理的状态	<p>形状：中空状成形板</p> <p>色：着色品以外は半透明</p>
物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲	<p>臭い：情報なし</p> <p>融点：150～165℃</p> <p>発火点：490℃</p> <p>溶解性：水に不溶</p>

10. 安定性及び反応性	
安定性・反応性	一般的な貯蔵、取扱いにおいて安定 酸化剤と反応する
自己反応性・揮発性 危険有害な分解生成物 (CO・CO ₂ ・H ₂ O以外)	なし(105℃5時間での揮発分は0.2%以下) 情報なし
可燃性	あり(消防法指定可燃物)
自然発火性	なし
水との反応性	なし
酸化性	なし
11. 有害性情報	
暴露時の影響	眼・皮膚を刺激することがある。 粉塵を吸入すると有害である(2) 加熱溶解物に触れると火傷することがある。 切断面での切傷には特に注意を要する。
刺激性	眼及び皮膚に刺激性を示す可能性がある(9) 高温で発生する蒸気は、刺激性を示す可能性がある(9)
感作性	モルモットの皮膚アレルギー性試験は陰性であった(10)
急性毒性	マウス経口 LD50 > 8000mg/kg(9)
局所効果	情報なし
特定の影響	発癌性：IARCでグループ3(ヒトに対する発癌性物質 について分類できない)に分類されている。 (1979年)(7,8)
発癌性評価	日本産業衛生学界：発癌性物質にリストされていない(6) IARC：グループ3(ヒトに対する発癌性物質について分 類できない)に分類されている(1979年)(7,8) NTP：未評価(11) OSHA：「発癌性物質」の規定に含まれていない(3) ACGIH：発癌性物質に分類されていない(4)
12. 環境影響情報	
データは知られていないが、鳥類・魚類等が摂取することがありうるため、い かなる海洋や水域でも投棄、放出してはならない。	
13. 廃棄上の注意	
原則として廃棄物は焼却又は埋立てによって処理する。焼却する場合は焼却設 備を用いて大気汚染防止法等に適合した処理を施し焼却する。 埋立てる場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従って処理する。	
14. 輸送上の注意	
国連分類番号 追加の規則	情報なし 梱包装が破れないように、水濡れや乱暴な取扱いを避ける。 特に、カドの傷付けには注意する。 もし、破袋して飛散した場合は滑って転倒しないように注 意する。流出したものは速やかに全量回収する。 パレット輸送の場合には、落下・荷崩れ等に特に注意する。 火気厳禁。 消防法危険物第1類、第3類、及び第6類と混載して輸送しない

15. 適用法令	
法 規 制	消防法：指定可燃物（合成樹脂類） 火災予防条例準則第34条 (3,000kg)
16. その他の情報	
引 用 文 献	<p>(1)日本プラスチック工業連盟標準試験法研究会資料</p> <p>(2)増補新版 化学品安全管理データブック vol. 1, 1027 化学工業日報社(1996)</p> <p>(3)OSHA: Code of Federal Regulations 29 Part 1910 (1996)</p> <p>(4)ACGIH; "Threshold Limit Values for Chemical Substances and Physical Agents and Biological Exposure Indices", 1999</p> <p>(5)厚生労働省； 労働省告示第26号 作業環境評価基準, 官報, 号外55号, 平成7年3月27日(1995)</p> <p>(6)日本産業衛生学会； 産業衛生学雑誌, 43, 95-119 (2001)</p> <p>(7)IARC; IARC Monographs on the Evaluation of the Carcinogenic Risks to Humans, Suppl. 7(1987)</p> <p>(8)IARC; IARC Monographs on the Evaluation of the Carcinogenic Risks to Humans, 19, 213-230 (1979)</p> <p>(9)OHS.; MSDS-OHS, STN online(2001)</p> <p>(10)住友化学工業㈱； 技術報告 S-84-005 (1984)</p> <p>(11)旭電化工業㈱ MSDS アデカスタブ A0-18 整理番号74702(1998)</p>
記 事 項	<p>記載内容は現時点で入手できる資料・情報・データに基づいて作成しておりますが、含有量、物理/化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。</p> <p>また、注意事項は通常取り扱いを対象としたものなので、特殊な取り扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。</p>